

第3回基礎力養成講座

サブレクチャー



サブレクチャーでは静岡大学人文社会科学部の田中伸司先生による「研究倫理入門～よき研究者を目指して～」という講義が行われました。この講義では、研究倫理とはよき研究者であるための自己確認・自己肯定のプロセスであり、どのような研究者でありたいと思うのか、この授業を通じて自分のスタートラインを確かめて下さいということをしゅくチャーしていただき、先生からの質問に受講生が回答、それに対する先生からの言葉もいただきました。

基礎力養成講座 サブレクチャー「研究倫理入門～よき研究者を目指して～」



田中先生より質問

Q1

社会は君たちに何を期待していると思うか？

磐田南高等学校 鈴木大介さん

社会が私たちに求めるものは、どのようなことをするにしても、おそらく社会に還元されるような働きをすることだろう。しかし、究極的に見ればどんな人だって社会に貢献しているだろう。だが、研究者というものは社会から見えにくいところにいるため、どのように社会に貢献しているかはわからない人が多いと思う。だからこそ、それを伝えるための科学館やサイエンスコミュニケーションといったそれを伝える存在が必要となってくる。

社会が私たちに期待することは、私たちが社会にわかる働きをすることかもしれない。これはほかの職業でもいえることだが、研究者の仕事は研究者の中でやりあっても社会に貢献できない。だが研究者は研究することが仕事であるし、社会に属する個人にもそれぞれの役割がある。だからこそそこを接続する存在が必要である。科学者や研究者はその一つの共同体として社会に貢献するために、そのような伝えるシステムが必要である。

Q2

君はなぜ科学を志すのか？
そして、どのような科学者になりたいのか？

静岡学園高等学校 山村宥喜さん

自分の好きな学問を、人のため、地球環境のために役立てたいから。人の「役に立つ」のはもちろんだけど、自分は何よりも「好きだから」という理由で今は志しています。自分なりの信念を持って誠実に研究に取り組める研究者になりたいと思っています。

磐田南高等学校 伊奈朋弥さん

自分が知らなかったことに気づきそのことについて解を得たり、納得いくのがとても面白く、その知的好奇心を追求し、あくなき探求をしたいというのが、科学を志す私の意思だと思います。もっとも、講義でもありましたが自分だけ好きなようにすればよいのではなく、自分が行った研究を世間に活かし、期待に見合うような成果を出し続けるのが理想的であると思います。また、科学者としての立場の責任を確認し、誠実な活動したいと思います。



田中先生からのお言葉

— FSS 受講生のみなさんへ —



「君はなぜ科学を志すのか」という問いには、人の役に立つため、社会への還元ができる研究をやりたい、自分の思う事を実現するため、知りたいから、自分の好奇心のため、好きだから、楽しいから、未知のことがあるから、問題が永久に湧くから、という多彩な回答がありました。第一問の「社会は君たちに何を期待していると思うか？」を受け止めた上で、自分の思うところを答えていると感じました。この問いに答えた上で「どのような科学者になりたいのか」についての明快な像を、みささん回答してくれました。

今回の質問への回答が、みなさんの研究の基盤を照らし出してくれているはずです。今回のみなさんの思いに誠実である事ができれば、よき研究者、よき科学者として歩いていけると思います。今後の研究の進展を期待しております。